

あなたのまちにも「地域共生」の取り組みを！VOL.4 別府市社協“別府っ子応援事業” をご紹介します



別府っ子応援事業は、「将来を担う子ども達の育成、支援などを行うことで、児童福祉の向上と別府っ子の心の醸成、健全育成を目指す」ことを目的に平成30年5月にスタートしました。財源は「社会福祉など社会のお役に立つように・・・」との想いを託された遺贈による寄附。別府市社会福祉協議会では、その想いを大切に、様々な取り組みを展開しています。

～取り組みは5つの柱からなります～

①活動支援	小中学生を対象に、スポーツ活動、文化・芸術活動などの興味や学びたい気持ちを持った子ども達が、経済的な事情で参加できなかったり、活動の継続を断念しなければならないことなどを防ぐために、意欲、才能のある子ども達に対して、道具購入などの費用を助成する取り組み。
②奨学金支援	高校生を対象に、意欲・才能のある子ども達に対して、奨学金を贈る取り組み。
③子ども食堂への支援	子ども食堂を開始、運営する上で必要な手続きやノウハウの情報提供をするともに、経費の一部助成等をする取り組み。
④福祉教育の推進	小中学校の児童生徒及び保護者を対象に、福祉教育を通して、心の醸成やボランティア活動へのきっかけづくりにつなげる取り組み。
⑤あなたができる別府っ子支援アクション	「空いた時間に活動のお手伝いをしたい」「時間や自信はないが寄附をして支援したい」など、様々な形で別府っ子を支援してくれるサポーターを募集する取り組み。

今回特にご紹介するのは、「訪問型ワークショップ」で展開する④の福祉教育の推進

子ども達が「自立した個人」として、お互いにその存在を認め合い、関わりを大切にしながら生きていく「ともに生きる」という考え方を大切に実施しています。コロナ禍に負けず、学校、障がい者団体、ボランティア等地域の理解のもとで、オンラインを活用するなど、工夫を凝らし展開中です！

(一社)福祉フォーラムin別府速見実行委員会との協働で、別府という「障がい者が多く住んでいる地域性」を活かしつつ、幼稚園から小・中学校まで幅広い年齢の子どもたちに対して、パラスポーツ等を導入した障がい者との交流機会や学びの場を提供しています。

「障がいがある＝かわいそう」ではなく、「なんで困っているのかな？」ということを経験を通して知って欲しかったんです。」そう語る担当の木寺さんが特に大切にしているのは「リフレクション」(振り返り+考えること)。「やりっぱなしで終わらないようにしっかりと振り返りをしてもらい、「自分には何ができるか？」というところまで考えてもらいたいんです。」 --- 1人1人の意見発表に時間を割くことで、子ども達の気づきを促すよう、工夫を重ねています。

5本柱をそれぞれに展開するのではなく、応援する支援サポーターを住民から募集したり、子ども食堂支援等も合わせて展開することで、地域共生社会の推進に向け、市民1人ひとりの地域貢献と相互の支え合い意識の積極的な醸成が図られています。

Q:この取り組みが生まれ、そして継続できている秘訣を教えてください。

A: 新しいことを1から始めるのではなく、今やっている事業を見直し、リニューアルしてスタートしました。これまで、私たちは様々な実践に対しての「効果測定」という視点が希薄でした。1つひとつの取り組みの効果を測定し、その意味、意義を考える。すると、「なぜこの実践をするのか？」という目的意識がはっきりしてきます。目的意識がはっきりすると、職員のやる気も自然とアップし、取り組みをより効果的に、そして長く続けていくことができる。これが秘訣です！

